



非
諸
廿
五
年
紀

花
香
淡
雅
花
香
淡
雅
花
香
淡
雅

諸
君
之

~ 5
5651



草書
草書
草書
草書



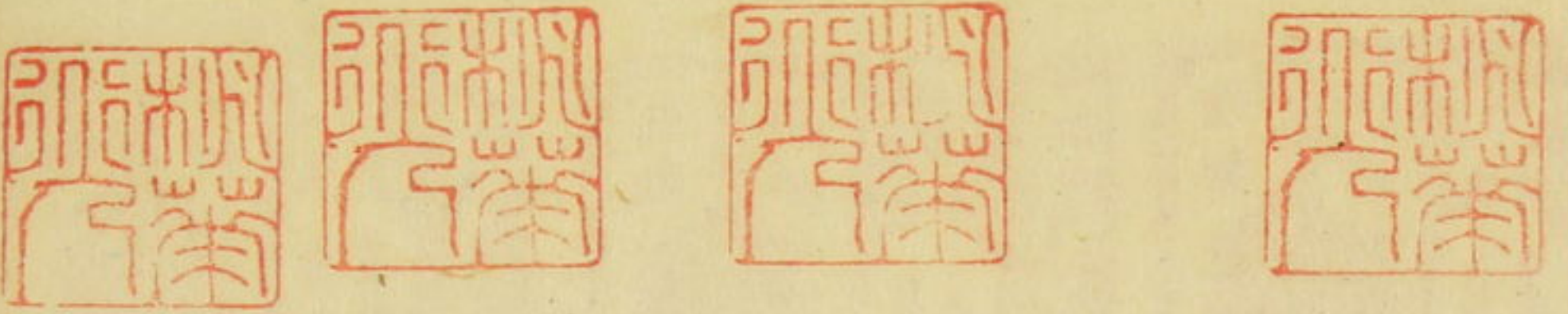
草書
草書
草書
草書

門八五
號 5651
卷

此詩
胸中錦繡極精
神一卷
見新古昔
蘇公羽



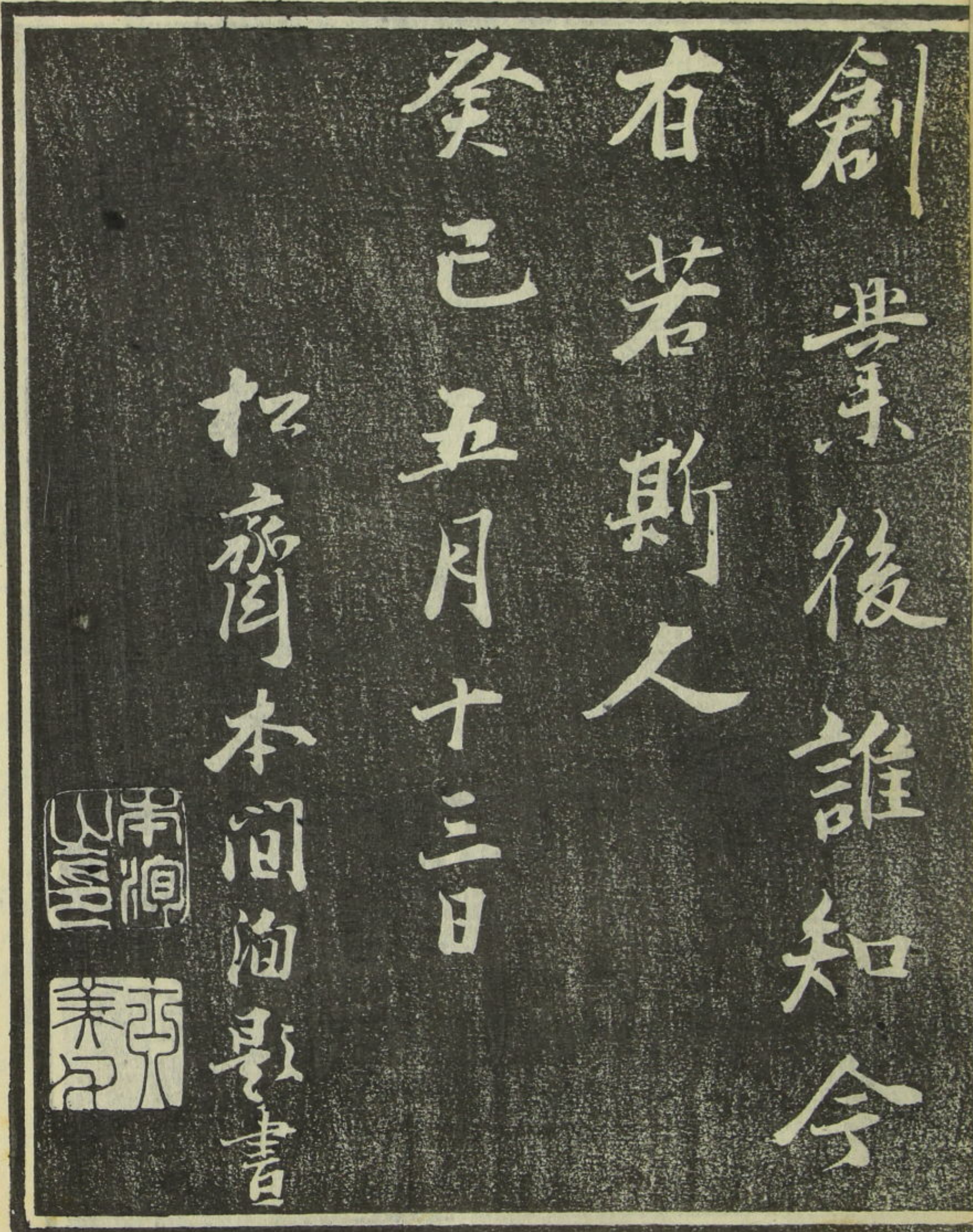
題
胸中錦繡極精
神一卷
見新古昔



びんごうのついでに
 美濃守の御書に
 尋ねてはまはるる
 おいぬはあまの
 やまのうらたに
 さいけいしを
 やまののみま



昭和十六年一月十一日
 尼野貴英氏贈



創業後誰知今
 有若斯人

癸巳五月十三日

松齋岡本洞海影書





一 誠心にて百のくらしをなすべし
 此の心にて百のくらしをなすべし
 ちんじふ書きしをたしあとの
 よのくらしをなすべし
 ちんじふ書きしをたしあとの
 おのくらしをなすべし
 ちんじふ書きしをたしあとの
 おのくらしをなすべし

大筆の筆八の筆



芭蕉翁句墳



芭蕉翁句墳
 名古を入口
 海邊にて
 紀三井寺
 又とまはし振はるる
 紀三井寺

高野山

父母名類子一書一雅子の書

の石夜泊

船を和らるる船を暮るる月

四國の大森村

世を終り代わく小田名川尾

丹波のさき

一聲の江に横ふやあさも守



文段婿持山

而影を映ふと月の子

一 碓井涼

ふと川流るる一紙に終るぬ文衣

中江色川田

古地や時を越む水みおや

法野者奇るる夜

あや女塚とまをるる草むらふ

日光山

あらしやうきも葉もあふれ日の光

た書見の滝

皆時に滝より流るや 暮らるる 福

下流の木の音

一処志と松馬の形 川 湧

坂東九葉の松

何そく あり日の 雛雨の 秋乃 風

日光山

山頂より河を 流るる水

流るる水

物来なきお解り ありての 風

小川の流るるの 色 ありての 水

記 ありての 水



歌仙

雪中翁 卷六

岩けし 秋もよ 持し 可も 持し 守
 互志 志 孫の 松乃 可も 母の 巴明
 内舎 入り 又の 出よ けり ち 志ら 乙 月 築
 照 輝 けり けり けり けり けり 太
 夏 けり けり けり けり けり けり 明
 七夕 已 けり けり けり けり けり 築

持し 其乙 やさし 持し 遠く 鐘 大
 持し 自利 の心 けり けり けり 明
 流は 流し 流し けり けり けり 築
 むか 入門 の鏡 けり けり けり 大
 持し けり けり の 箱の けり けり けり 明
 忽 是れ けり けり けり けり けり 築
 持し けり けり 月 けり けり けり けり 大
 けり けり けり けり けり けり けり 明

目下此の如きは... 五両... 十能古... 幽冥... 半... 成... 摘... 取...

果方明今果明方果

目下此の如きは... 五両... 十能古... 幽冥... 半... 成... 摘... 取...

方明果方明果方明

染染は轉々ぬ先の下小神
 老女此傳のぬ川や
 吸物此之をいふてハ叶す
 ときとて糸布のうね 碧
 むらぶ此途の車も花の陰
 昔ききききまのま風
 大 染 木 明 染 木 明

安永子夏月健舎無水

天明おまをを人となし伊豆をく
 おまを天城山の禁下那を裁す
 かまのまを人おま一始す
 了西之肥入里新木氏は是をい
 染小古後まを了れ一遠田殊文堂
 時々の遠志波を舟まを送る
 田子ゆす了沖ま 月果
 瀬川と海をふりてのま

不_レ言_レ一_レ室_レ諸_レ河_レ乃_レ田_レ子_レ也_レ巴_レ明

阿_レら_レく_レに_レ斜_レ本_レ崎_レを_レ杖_レ突_レく_レ又_レ船_レの_レ了

岩_レ地_レ黒_レ松_レ赤_レ名_レ白_レ山_レを_レの_レ高_レ受_レく_レ又_レ嶽

子_レ貴_レ門_レ我_レ年_レ宮_レふ_レと_レ久_レ病_レ」_レ松_レ島_レ象_レ浮

る_レと_レし_レと_レら_レや_レ象_レ浦_レ」_レの_レ怪_レ山_レ名_レ奇_レ石

可_レふ_レと_レ日_レ沙_レ語_レや_レ」

陸_レ子_レ船_レ亦_レ治_レの_レい_レま_レや_レ岩_レ松_レ越_レ巴_レ明

叔_レ子_レの_レ君_レい_レお_レは_レ可_レる_レ後_レ」_レと_レす_レは_レ

海_レ田_レ書_レ浦_レ」_レの_レい_レま_レは_レ子_レ浦_レ」_レ月_レ景

長_レは_レ長_レ石_レ長_レ指_レ叔_レ子_レ石_レの_レ形_レを_レさ_レす

も_レ市_レ村_レ鉢_レ瓶_レ埴_レ」_レの_レい_レま_レは_レ三_レ尺_レ斗_レある

石_レの_レ面_レ」_レ 六_レ花_レ産_レ兒_レ

柄_レ扱_レ」_レの_レい_レま_レは_レ山_レか_レ」_レの_レい_レま_レは_レ清_レ水_レが

あ_レる_レ」

」_レの_レい_レま_レは_レ山_レか_レ」_レの_レい_レま_レは_レ清_レ水_レが

日_レ景_レの_レ玉_レを_レ結_レ借_レ」_レの_レ清_レ水_レが_レ巴_レ明

下田の瀑をかく白浪繩地磯辺は
ひしき塔と山と人海と
とて子と接ふ辻波とさき
とる成翔るや

この歌の子とあまも
放野群牛犢に歸る古
牛の子を採獲花う
河は始るに水素ら
たつ川

赤海山角口場に津宿部の上
塔あり

照しき子と推の
段形を田と投合の石
投石のふら
伊東の法美
熱海今井二程の許
六の浮河子

雲を穿て高きを尋 高き雷よりも強
 過よりて人の心唯 弱き痛る已
 之あり煙 蹴めけり 杖き 寺 巴の
 持の中記 後正の社 深 阪 后の都 雲 伊
 豆山 持 祝 走り 湯 ぬ 滝 男 紙 あり
 又ありと

葉よりてよ 小児 木の末の 月 葉
 何れも守 弱き 湯の 庭より 全

日を輝く 雲を穿て 高きを 尋 高き 雷よりも 強
 過よりて 人の心 唯 弱き 痛る 已
 之あり 煙 蹴めけり 杖き 寺 巴の
 持の中記 後正の社 深 阪 后の都 雲 伊
 豆山 持 祝 走り 湯 ぬ 滝 男 紙 あり
 又ありと

葉よりてよ 小児 木の末の 月 葉
 何れも守 弱き 湯の 庭より 全

巴明

寛政十年年誕生の日六日何よその
とくは松平殿跡あらうと出川を越え
今日あまのりよぬる人の浦に以て離れ
う伊勢の海神楽おあき
残るる雪をいふはまの風
今まあまのりよぬる人の浦に以て離れ
持ぬる人皆那智山にぬるる人
とくは松平殿跡あらうと出川を越え

雪をいふはまの風
持ぬる人皆那智山にぬるる人
とくは松平殿跡あらうと出川を越え
今日あまのりよぬる人の浦に以て離れ
う伊勢の海神楽おあき
残るる雪をいふはまの風
今まあまのりよぬる人の浦に以て離れ
持ぬる人皆那智山にぬるる人
とくは松平殿跡あらうと出川を越え

くらしん

賊を、利也流石、初志の

粟山、神作、和泉路、かき信田の

本、まじりに、淋、さる者、おの、さる者

花、さる者、おの、さる者、おの、さる者

と、か、し、て、志、か、さ、る、者、おの、さる者、おの、さる者

又、部、の、さ、る、者、おの、さる者、おの、さる者

橋、の、さ、る、者、おの、さる者、おの、さる者

橋、の、さ、る、者、おの、さる者、おの、さる者

須、磨、の、さ、る、者、おの、さる者、おの、さる者

は、お、の、中、を、経、て、後、に、おの、さる者、おの、さる者

乃、橋、の、さ、る、者、おの、さる者、おの、さる者

と、おの、さる者、おの、さる者、おの、さる者

又、通、り、おの、さる者、おの、さる者

八、島、壇、の、浦、を、おの、さる者、おの、さる者

合、を、自、死、の、洞、を、おの、さる者、おの、さる者

降参の川のふより船をさしこむる所
おしとの瀬戸より急流に舟をさし
急流をいぬ所の綿帯橋ふといふ所
の遊宴夜泊をさし

舟をさしこむる波濤の敷田鶴みま

舟のさしこむる波濤の敷田鶴みま

舟のさしこむる波濤の敷田鶴みま
舟のさしこむる波濤の敷田鶴みま
舟のさしこむる波濤の敷田鶴みま

乃頂よ安業をさしこむる所を獲ちぬ
舟をさしこむる波濤の敷田鶴みま
舟のさしこむる波濤の敷田鶴みま
舟のさしこむる波濤の敷田鶴みま

又はのふしの津近二十里波路の腕を
舟のさしこむる波濤の敷田鶴みま
舟のさしこむる波濤の敷田鶴みま
舟のさしこむる波濤の敷田鶴みま

ハき色天の栲立切戸の文珠成相
観音と伴し日本三景とす地蔵
子衛の海は小舟を浮め黄巻と折れし
夕虹り又折る地帯とす
由るの湊は狭の隈しとす竹生島と
通夜とて徳のまはるをす
月さしとて流をさす
京の御室の宮とす

洛外とす残の眼をさす大和河内
の旧跡は殆どをす難波の大海を正
とす流石の解をす
海を難波とす河内とす
流の夜は小舟を浮め黄巻と折れし
夕虹り又折る地帯とす
由るの湊は狭の隈しとす竹生島と
通夜とて徳のまはるをす
月さしとて流をさす
京の御室の宮とす

京の御室の宮とす

二十三番管沼の札切

世を照す花を彩るまじく

三河の八幡宮を参るの志のよき人なり

こころに旅百十日あるの風

志すも歌やしつるまじく

の井山守持の谷も旅人近に思ひ

しつる七月十日家へ歸り

文月のみより嬉し父の歌

旅の心離るる歌又爾年三月に三保

崎は見えしは杖曳了甲斐の東不

又返り日を待つ後訪明舟へ諸御水

の歌を文月の夜時しつる花撰を

殊く文汲田舎に集きて句あり

其の歌やその志のよき人なり

浅くは口掛を尤も人なり

石井崎を歌

妙我操名の出を語り

巖然と蟬は——新宮柱

三好山と摺草より山又山は五峰の回廊

火日向し移る昔家くの棧別ふと巖

中務を拂く里より下野

山境の遙く似る猿まじり

秋又三十四夜をのこり利根川を我

岩毎に花を待し——坂東十七番が流し

岩屋緯を——

さきとらうその極ふか葉の毛

日光山

さき風や伏裁り日の心入り

中野寺湖水舟の信後素衣えの滝を

見ゆれははの宮は梅りおとふ川を

静く——室の小崎は借あや——のふ

うらなふの——

瓢よもいぬの海一もいふたの飛

皆田おきあはるこ

花香おきあはるこ

猿の白敷重お花の道は戸の借宿後

六月の水はくく実あはる

武士町人の備あき神を招合ふ吉原

の合衆をききあはるこ

風まよひ風風細やあや綿

四季

花のまよひ人まき性未だ

春のまよひ花まき性未だ

夏のまよひ花まき性未だ

秋のまよひ花まき性未だ

冬のまよひ花まき性未だ

人まき性未だ

人まき性未だ

夕暮わくし後の月のこころ
きり帆花並して東の風は
静る庭を渡りて夜の笛の音
と邦のよき習俗の用紙の夕暮
暮積る院のやまを夜を
朝露を鏡のこころの
後世の山月夜鳥の葉を
寒くして白粉のまを

空に水は来り風をみぬ

花影の月雪

あつたつたの月影を
むの影を
かきと守哉の
月影を
花影を

名目やを舟の波に引か
明月や船を引く様
をわなげあか子の獲り
嶺もやなるは旬と
あか子よはきこへり

三三の臨日記山多
一々々々々々々々々々

はめり二千の章
乃中へ架掛いぬ
とさ守月雪
とさ解ゆ
とさゆら
玉残一早

三山人巴明

追加

美子也遊きし旅しる夜の風
夜のしるき旅しる夜神楽
孫の毛帯細解く時
おしる守振のしるしお
旅しる移りし旅しる月
急な急車の船しる
孫しるし旅しるお風

明月かりし旅しる夜
少夜もあし旅しる水
と旅しる旅しる心
旅しるの旅しる旅しる
旅しるの日か人旅しる大井川
旅しる二章八巻の流し文化の度
旅しるし旅しる乃田旅しるし
旅しるし旅しるの風しるし

妓王妓女

相國高樓帝閣傍
芳年姊妹画眉長
玉簪麗日爭春色
舞袖容華添寵光
題壁愁留秋草賦
寄身深鎖梵王房
只今惟見岷峨晚
晚象淒涼木葉黃

名而美
妹容以花の浮持るる利

日中虫

古里雪

七賢人

翠待春の果と酒の草

二

為し角嵐を

蝶多し友や崩り袖たゆ

寄物二句

鴉 雁 水鷺 鷗 鷹

いかにけり日さきくともあま

紙 筆

文月や神は洗ふて硯 硯

庚寅年おかけ糸の暗くあや

綿多し加し早もとの伊勢路に



影多し寄りの句は縁旅案の傍

くまははあまをさす人

人由し

くまを中先海より文よ

揚りよ雪はさるるまの案

かき 巴歌

白き心はくまはくまのま

可
可
可

強
強
友
友

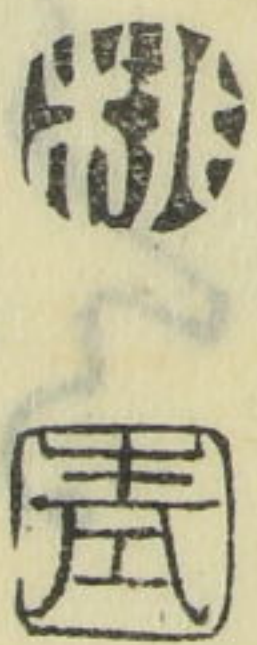
先
先
の
の
様
様

蕉門古人真蹟

二十
二十
五
五
点
点

内
内
七
七

本
本
陽
陽
意
意
為
為
桃
桃
也
也



一
一
人
人
の
の
心
心
を
を
知
知
る
る
事
事
也
也

藤の巻

金魚

水巻

其角

Handwritten text in cursive style, including characters like 藤, 金魚, and 水巻.

任名のきふりこころしい物人
申すに

三方より解りぬ

申すに

もろとこころの
雪を

あつらひ小葉

雪を八羽舎兄也下

あつらひ正自の梅はさくら
らるるるるるるるるるる
らるるるるるるるるるる
らるるるるるるるるるる

武陽苑四十雀自画讚

あちさくそ
まもや
り早う

十古

新

清

新乃

新花

乙

新

新

新

新

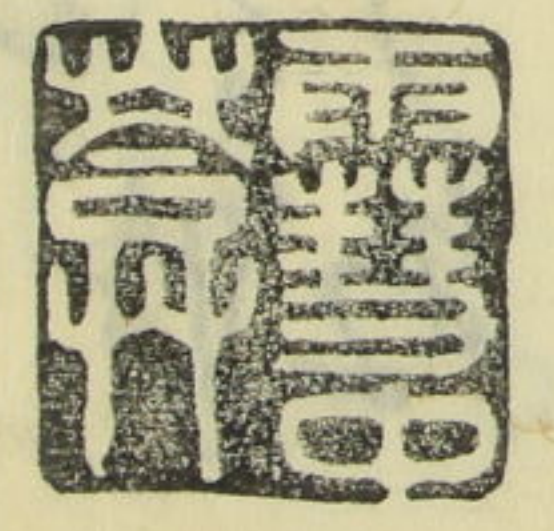
新

新

新

心茶花也山
 舟行
 色
 序
 所
 日
 人
 死

古
 日
 太



二世雪中菴更登真蹟

Handwritten cursive text in a rectangular frame, consisting of approximately 12 vertical columns of characters.

六九

西田雪中菴山元末真蹟

Handwritten cursive text in a rectangular frame, consisting of approximately 12 vertical columns of characters.

三三

七部集の中より

あはれなまのこゝろに けふもあはれに けふもあはれに

あはれなまのこゝろに けふもあはれに けふもあはれに

あはれなまのこゝろに けふもあはれに けふもあはれに

あはれなまのこゝろに けふもあはれに けふもあはれに

あはれなまのこゝろに けふもあはれに けふもあはれに

あはれなまのこゝろに けふもあはれに けふもあはれに

あはれなまのこゝろに けふもあはれに けふもあはれに

あはれなまのこゝろに けふもあはれに けふもあはれに

あはれなまのこゝろに けふもあはれに けふもあはれに

あはれなまのこゝろに けふもあはれに けふもあはれに

あはれなまのこゝろに けふもあはれに けふもあはれに

あはれなまのこゝろに けふもあはれに けふもあはれに

あはれなまのこゝろに けふもあはれに けふもあはれに

あはれなまのこゝろに けふもあはれに けふもあはれに

あはれなまのこゝろに けふもあはれに けふもあはれに

田中ありとすしと稱するところ
 多野をくふ船曳人などてんたう
 其の野を横よなるむす月細
 抱と。子と。小使と。さう了
 くくくくく。河内。の。名。物。送。り。熟
 川。流。張。り。く。く。浪。人
 是。し。も。の。と。徳。よ。く。く。く。く。一。く。旅
 ぬ。り。と。衆。く。く。く。く。月。影。く。執。人

昔今

野水

杜國

利牛

野坡

嵐重

全

執人

禪寺あり一日おと砂の並
 柳の角乃くくくを。カ。貝。穴
 濱あり。秋。牛。は。徳。と。と。と。也
 入。道。子。該。坊。の。湯。湯。の。夕。ま。著
 中。ま。も。勢。心。乃。た。く。き。山。伏
 千。う。い。と。あ。む。北。山。の。て。く。つ
 姥。さ。た。ら。ら。一。き。極。心。嘆。然。り
 あ。く。く。く。く。く。あ。く。く。く。く。夕。月。照。り

里圃

馬莧

翁

曲翠

翁

若今

戯人

聖水

静はあゝは舞をよそむく
 空際乃遊説の如のたそふ
 あゝあゝのうら刺一 金二万兩
 比里よさのさきまは名をうけ
 けり給ふのちもあまの河けあ
 幼木のうゝも君まのたそふ
 七の鐘乃かゝる花もや来る
 志の雨あゝらゝちを降也

其角
 全
 裁人
 翁
 曾
 松風
 桃

木の穂を枝に風を倒さ
 る切の音も風の如き目
 身はささくはる人よある
 今よちを乃にさかすけに
 貴人のさあおるんは打能
 いらまゝのさきまは名をうけ
 疎う改もる親父も借残
 張るまゝのさきまは名をうけ

形坡
 鼠
 利牛
 鼠
 利牛
 翁
 翁

はた〜痛^{ツス}〜
明り〜首送〜
小〜
子〜
日
軍の大事
自由
狐の

野水
重五
多
壯國
孤危
正秀
孫碩

市玉と利忠[。] 姑り去る
舞
一
山
新
居
路

惟然
多
支考
惟然
翁
支考
孫碩
路通

花より子。女子たるは。連き。高

ふ。ふ。ふ。ふ。昔もあし。何。密水

い。い。い。い。魂も。い。い。い。い。高

そのよも。日。よ。よ。よ。よ。舞

彼者。一。ま。花。の。く。く。形披

二人。ふ。ふ。ふ。ふ。り。り。花

花より子。花より子。花より子。花より子。

子。子。子。子。子。子。子。子。子。子。

い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。

あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

意阿十位。高身。冷身。知難。

又。又。又。又。又。又。又。又。又。又。

又。又。又。又。又。又。又。又。又。又。

又。又。又。又。又。又。又。又。又。又。

又。又。又。又。又。又。又。又。又。又。

長松の親の名了末山正茂 浅生菴 野坡

初積子淳子舟 哉智氏 哉人

哉人 松本山 丈草

管束 五雲其 杖風

人名 五老井 許六

舟の鞍 翠基 北枝

同 松魚達人 景堂

夕波の舟 孤屋

何 利年

森 乙刻

暮 洒堂

冬 路通

一 尚白

智 弥碩

夏 重五

廣 史邦

友藏子... 甲斐多那平夜乃
 狼を送るかきもの神たき
 文衣襟にねらふまはらふま
 夜降やむまの... 月をす
 浦風やむまの... 魂のくれき
 霧よまも... 羽の毛
 ... 眠るふまの... 糸

旦葉 沽圃 傘下 馬寛 里圃 岱水 岩悟 羊残

... 葉の毛... ねらふま
 ... 又よと... 羽の毛
 ... 葉の毛... 羽の毛
 ... 葉の毛... 羽の毛
 ... 葉の毛... 羽の毛
 ... 葉の毛... 羽の毛
 ... 葉の毛... 羽の毛
 ... 葉の毛... 羽の毛

猿 井 羽 胡 笑 一 笑 素 龍 雲 芝

伊賀藩中

○
星毎に雲や沈見の枕の花 太白堂 桃隣
松島や静に身をとこと新ら武白 魯良
三葉散り改にかき木や桐の苗 洛醫 凡兆
似合しきか子の一葉や池の里 岩菊丸 杜國
志く魚の骨や卦部く大江山 尾陽 荷今
麦畑へ一雁やおもへとあまき外 名古屋 野水
一の苦又を通す日我社の風 膳所 正秀

くらややま漕舟もみ業舟 拾倉氏 嵐蘭
ささげの葉を吹く空を曇るの羽 烏落人 惟然
庭まをさすつゝ見らるるみも庭 蒲萄坊 千那
夜の日やふ枝の小糸の様 大垣氏 如行
おろしきささげの葉を吹く空を曇るの羽 官崎氏 荊口
ささげの葉を吹く空を曇るの羽 菅沼氏 曲翠
終るるを思ふ身入るるを思ふ 江島僧 木子由
ささげの葉を吹く空を曇るの羽 大津尼 智月

中興名譽

案とるまの月案とるまの時
 乙兒
 也
 有
 螺
 夢
 太
 夢
 太
 月
 巢
 完
 来
 家
 一
 枝
 の
 案
 と
 食

五贊

女の魚小園とゆたろ小
 菊の形小泊たきり
 卒都塔小町り
 枕燈小泊地帯ひと
 雪女り
 凡明橋上小琴と弾は
 小

七月果のま踏み

其御楽乃分と折す

夕のほれ 圓美人や糸瓜
鯨阿字と初と種と箱の甲
女の果と卒 都渡小所や枯柳
ととらりし 地味 寄之 拵 擗
雪女唯白妙忠いりしと羅
琴おまや時いやは行乃積良者

同紙

駿驥十二吟

春蛇亭郎妹

深き花乃淺き沼津哉

何々舎我堂

不二殿又原乃春色長

月主舎龜六

吉原の強人ふりし柳舟

一閑亭斗衡

角急乃浦風きく田子神所

松柯亭葛人

樽拍子戸漕入る田井の窓永

竹陽亭扶老

之保はる見無は白波社の月

月太良悟泉

川舟の急車と戦ふ江尻の

雪屋人月巢

國み屋やま山路の松の

歩里亭掬身

梅の草子鞠子の宿の巻の

月連舎巴明

床の紫奇人宿借の巻の

橋舎欄挑壺

藤の枝や花の巻の

子城の松

孫磨盧居逸

小刺降 ことまき 勅乃 山田 明

くちまき 於 孫何 其 國の 宿を

影よと ちか 年乃 似 残 一 年

天明 卯 志 古 後 今 皆 古人

と ち 不 解 在 脚 追 慕 乃 才 志

宿 年 一 記 事 小 亦 涙 亦 嗚 呼

矣 の 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一



観 望 家 志

早 暮 孫 磨 盧 居 逸 乃 可 也

孫 磨 盧 居 逸 乃 可 也

八十 進

壽家夫人公千知度

七

室

若

楚巴靜謹書



三少人巴所雅為之風雅

皇中若神

西海は清み

節を度

七

浦

松
十
字



癸巳夏日

阿爾察克
詩
旭岳



一集乃真...

...

...

...

...



高子富中

秋
樹
林
石
上
坐
看
雲
出
谷
來
千
年
石
上
坐
看
雲
出
谷
來

秋
樹
林
石
上
坐
看
雲
出
谷
來
千
年
石
上
坐
看
雲
出
谷
來

琴瑟
心
散
人

積
習
成
性

琴瑟
散
人
同
友
齋

法
藏